

01

SAPPORO MONODUKURI × DESIGNER

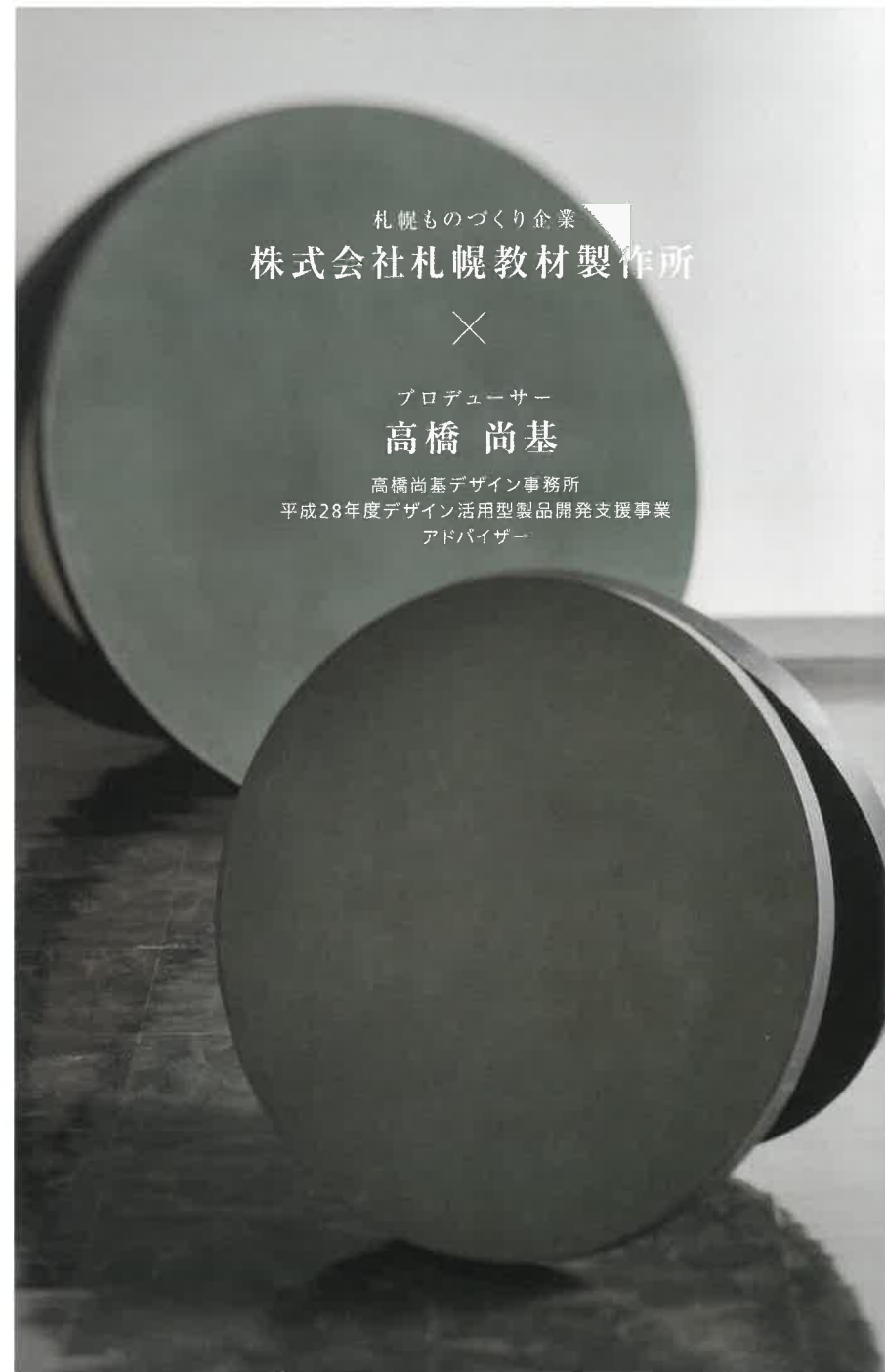
The power of design will
support your product development

製品開発事例-01
平成28年度札幌ものづくり×デザイナー
プロジェクト支援対象事業

転がる円い黒板 「CORON」

株式会社札幌教材製作所

札幌教材製作所は、学校や工事現場などの黒板、表示・掲示板をはじめ、ホワイトボード等のスチール製ボードや木製什器を自社で製作している会社です。近年ではオフィスの会議室や学校などで有効な「ビューボード」の開発も行ってきました。時代のニーズを把握しながら、当社の原点である「人の気持ちを伝える黒板の価値」を大切に考えています。



札幌ものづくり企業
株式会社札幌教材製作所



プロデューサー
高橋 尚基

高橋尚基デザイン事務所
平成28年度デザイン活用型製品開発支援事業
アドバイザー

POINT

プロデューサーによる支援のポイント

✦ グランドデザインの立案

教育とは？教材とは？なぜ作る必要があるのか？など企業が商品開発に取り組む根本的な問いかけからスタートし、価値情報の整理と計画＝「グランドデザイン」に取り組みました。

✦ ワークショップ形式による創造プロセスの導入

企業内の固定概念を取り払い楽しく自由な意見を促すためグループによるワークショップを行い、デザイナーと共に商品アイデアを作り上げました。

✦ 実験の場「黒板ラボ」

黒板の可能性を広げるアイデアを自由に話し合い、製作・実験する場を設け、実際に試作品を展示会で発表しました。



START AND THEME

製品開発に取り組むことになったきっかけ

少子化に伴う学校減や公共工事の減少等により業界自体が斜陽化していく中、現状の黒板に頼ることの無い、新しい使い勝手や切り口の製品開発を行ってまいりましたが、それもすでに頭打ちの状況です。少しでも余力のあるうちに、新たな発想の製品や新事業展開を、と模索していたところ、当事業を知り応募。専門家チームの支援のもと、製品開発を進めることになりました。

テーマは、「現代版寺子屋の環境づくり」。コロコロ転がして移動できる、円い黒板「CORON」を開発しました。



RESULT

今回の取り組みで、得られた結果や変化



「グランドデザイン」というステップの重要性を確認しました。製品の色や形を追求する以前に、自分たちの実績を振り返り、これから先何をしたいのか、何を伝えたいのか、それをどう表現していくか、という製品開発のコンセプトを固める手法です。



黒板体験イベントを通じて、商品とは「作り手」の自己満足から来る技術や機能の押し付けではなく、「使う人」の想像力がふくらみ、ワクワクするような経験や満足感を与えられるものであるべきだ、ということがわかりました。



教育の現場は、先生から生徒への一方通行であってはならない。双方向の学びの場に必要なのは何か、という視点から日本古来の「寺小屋の学び」スタイルをイメージしました。どこでも移動しやすい「円い黒板」。それは使う人が自由に創造できる「壁からの解放」です。

✦ 印象に残った取り組み

「ビジネスEXPO」というイベントに参加しました。自社製品を展示せず、黒板の端材を使って、来場者に遊んでもらえるブースを作りました。自由な発想で黒板を活用する来場者に、「黒板の本来あるべき姿＝人の気持ちを伝え合うツール」を発見しました。

✦ 苦労したこと

どこでも自由に持ち運び、創造できる黒板。それは無駄なものを省く究極のカタチ「円」になりました。「移動する。自立させる。コンパクトに収納する。」ために実物大の試作品を作り、検証を重ね、苦労の末「拝み看板風」のスタイルでまとまりました。

✦ 今後の展望や目標

この「円い黒板」が、「伝え合う、話し合う、学び合う」教育の場で貢献できるよう、次代の役割を担うツールとして、より提案力をもった独自の製品化を目指します。これからもさまざまなシーンで使っていただける製品開発に真剣に取り組んでまいります。